

第17回マクロライド新作用研究会

日時：平成22年7月16日(金) 17日(土)

会場：北里大学 白金キャンパス 薬学部コンベンションホール

当番世話人：滋賀医科大学耳鼻咽喉科学 清水猛史

7月16日(金) 《1日目》

15:00-18:30

シンポジウム 「インフルエンザ感染とマクロライド」

特別報告 「抗インフルエンザ薬のタミフル、リレンザの服用で気道粘膜の抗ウイルスIgA抗体の産生は抑制されるが、マクロライドの併用はこれを回復させる」

招聘講演 「高病原性鳥(H5N1)インフルエンザの臨床的特徴とインドネシアにおける現状」
Faisal Yunus, Persahabatan hospital, University of Indonesia

7月17日(土) 《2日目》

09:00-12:10

一般演題 ①「細菌/体内動態」 ②「副鼻腔炎」

国際シンポジウム 【日本発、世界に広がるマクロライド療法】

「慢性副鼻腔炎治療におけるマクロライド療法の欧州・アジアの現状とこれからの展望」

〈海外招聘〉

Anders Cervin, ORL-Head and Neck surgery, Lund University, Sweden

Geng Xu, the first affiliated hospital, Sun Yat-sen University, China

13:00-16:30

特別報告 「MACのマクロライド耐性化に関する新たな知見」

一般演題 ③「気道炎症/呼吸器」 ④「臨床応用」

ワークショップ 「新規12員環マクロライド EM900の抗炎症作用について」

参加費：5,000円

共催：マクロライド新作用研究会
アボットジャパン株式会社
サノフィアベンティス株式会社
大正富山医薬品株式会社
ファイザー株式会社

Message

当番世話人メッセージ

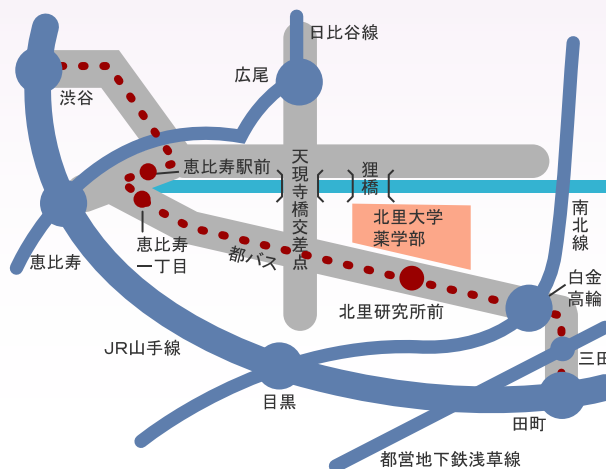
今回の研究会では、第1日目の午後にインフルエンザウイルス感染に対するマクロライドの併用療法の有効性について、臨床と基礎の両面からのシンポジウムと特別報告を企画し、インドネシアのYunus先生によるH5N1インフルエンザに関する特別講演を予定しています。第2日目は午前中に慢性副鼻腔炎に対するマクロライド療法について、欧米、日本、中国における現状と将来についての国際シンポジウムを、午後には耐性化に関する特別報告と、抗菌作用がなく免疫調節作用のみを有する新たなマクロライド誘導体E M900に関するシンポジウムを予定しています。皆様ふるってご参加ください。



滋賀医科大学耳鼻咽喉科学 清水猛史

会場案内

北里大学 薬学部白金キャンパス
東京都港区白金5-9-1
<http://www.kitasato-u.ac.jp/pharm/>



Please
Access

マクロライド新作用研究会WEBサイト
<http://www.macrolide.jp>

過去開催の発表抄録をPDFでダウンロード可能